

2026年3月9日
日本教育新聞にめぐみこども園の園内研究会の
保育実践で、1歳児の事例が掲載されました

2026年（令和8年）3月9日（月曜日） (6)

幼稚園・保育園

ママ先生が伝える

保育の
エッセンス

[155]

〈今回の言葉〉

「地域との交流は、このように互いに名前を呼び合い、親しみを感じ合うような二人称的な関係性が生まれることが大切です。単なるイベントとしての地域交流ではなく、継続性や互恵性、あるいは豊かな出来事が生まれるなど、そこには物語性の特徴としてあるのだと思います。」



大豆生田 啓友・玉川大学教授

二人称的な関係が生まれる地域交流

最近、地域とのつながりの中で豊かな保育が生まれてきたという事例を聞かせていただくことが増えてきており、とてもうれしく思います。

先日、ある園の園内研修で聞かせていただいた1歳児クラスの事例を紹介します。そのクラスは園外に散歩に行くことが多く、その散歩の時に子どもたちはサツマイモのツルに興味を持ち、それを帰りに持ってきて帰りました。おじいちゃんやおばあちゃんに「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

「そんなものが欲しいの？」と、とても不思議な表情をされたそうです。ツルをもらった子どもたちは、それを引っ張って遊んだり、縄跳びのよさげな音を立てたりして遊んでいました。その様子を見て、「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

「散歩に行くよ」と伝えられると、子どもたちは「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

地域との交流は、このように互いに名前を呼び合い、親しみを感じ合うような二人称的な関係性が生まれることが大切です。単なる

多いのですが、その散歩を通してたまたま出会った、畑で野菜を作っているおじいちゃんやおばあちゃんに「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

「散歩に行くよ」と伝えられると、子どもたちは「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

地域との交流は、このように互いに名前を呼び合い、親しみを感じ合うような二人称的な関係性が生まれることが大切です。単なる

薩摩芋の収穫の時期、子どもたちは、このおじいちゃんやおばあちゃんに「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

「散歩に行くよ」と伝えられると、子どもたちは「おじいちゃん、おばあちゃん、サツマイモのツルを持って帰りました。」と、とても不思議な表情をされたそうです。

地域との交流は、このように互いに名前を呼び合い、親しみを感じ合うような二人称的な関係性が生まれることが大切です。単なる

次回は23日付掲載